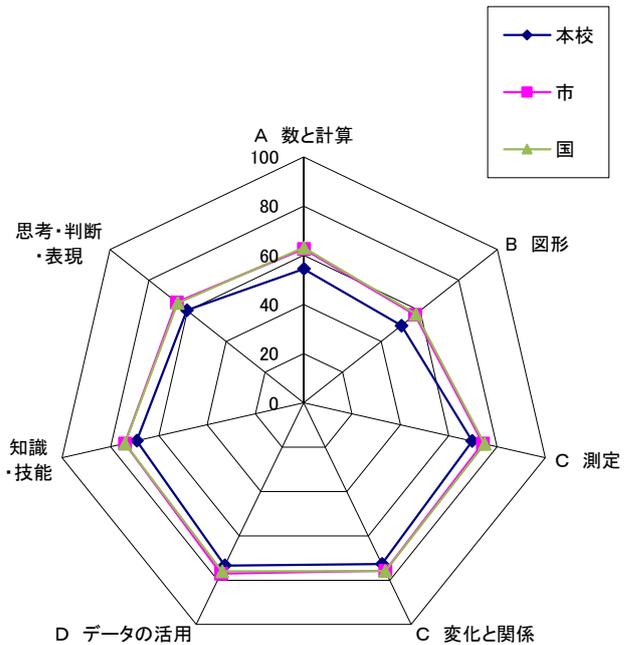


宇都宮市立横川中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	54.5	62.6	63.1
	B 図形	50.4	57.5	57.9
	C 測定	69.7	74.1	74.8
	C 変化と関係	72.7	75.8	75.9
	D データの活用	73.4	77.1	76.0
観点	知識・技能	69.1	74.1	74.1
	思考・判断・表現	60.4	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●数と計算の平均正答率は54.5%で、全国平均より8.6ポイント低い。 ●8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く問題の正答率は36.4%で、全国平均より19.1ポイント低い。 ●記述式の問題は無解答が17.0%あった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・除数で表すことができる二つの数量の関係を的確に捉えて立式し、正確に計算をすることができるようにすることが大切である。商が1より大きくなる場合だけでなく、商が1より小さくなる場合の除法についても被除数に当たる数と除数に当たる数を的確に判断できるようにするため、生活場面に関わる問題場面をイメージできるように、言葉や絵、図、数直線などを使って視覚的に考え表現させることで、正しく立式したり問題の意味を正しく捉えたりすることができるように指導していく。
B 図形	<ul style="list-style-type: none"> ●図形の平均正答率は50.4%で、全国平均より7.5ポイント低い。 ●二等辺三角形を4つ同じように組み合わせでできた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く問題の正答率は40.9%で、全国平均より5.1ポイント低い。無解答が9.1%あった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形や平行四辺形、ひし形、台形など、図形の構成要素である辺や角に着目し、底辺や高さを正確に捉えて立式したり正答を導いたりすることができるように、授業で復習を取り入れるなどして定着を図っていく。また、幾つかの図形を組み合わせで新たな図形をつくりその面積を求めるなどの数学的活動を授業の中に取り入れ、思考して伝え合ったり求め方を表現したりする数学的活動を随時取り入れていく。出題者の意図に沿った解決方法で導けるよう指導・支援していく。
C 測定	<ul style="list-style-type: none"> ●測定の平均正答率は69.7%で、全国平均より5.1ポイント低い。 ●直角三角形を異なる組み合わせの仕方で作った2つの図形の面積の関係について正しい記号を選ぶ問題の正答率は65.9%で、全国平均より6.6ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な形をした図形の面積を工夫して求めることについて、面積は変わらないという保存性や足すことができるという加法性を基に的確に捉え、比較できるようにしていく。個で追究する学習に加え、グループ学習で様々な考え方を表して違いを出し合ったり、よりよい方法を吟味したりすることで、柔軟な思考力・判断力・表現力を育成していくような活動を充実させる。
C 変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> ●変化と関係の平均正答率は72.7%で、全国平均より3.2ポイント低い。 ●500mを歩くのに7分間かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間をかく問題の正答率は80.7%で、全国平均より6.0ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道のり・速さ・時間の3つの言葉の意味を正しく理解させるとともに、比や比例の関係を生かして時間を求めたり、道のりを速さで割って時間を求めたりする経験や活動を重ねることで、道のり、速さ、時間の3つの関係について、正しく理解できるような指導・支援をする。
D データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ○5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ問題の正答率は76.1%で、全国平均より2.2ポイント高い。 ●データの活用の平均正答率は73.4%で、全国平均より2.6ポイント低い。 ●帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く問題の正答率は43.2%で、全国平均より8.8ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・棒グラフと別の条件から2次元表に表し換えたり、帯グラフから割合の違いが一番大きい項目を選び、その項目と割合を書くなどの応用問題を計画的かつ積極的に取り入れたりすることで、各グラフの読み取る力を伸ばすとともに、集団の特徴を的確につかむことができるようにする。